

ポピヨドン[®]スクラブ7.5%

500mL

- 3.妊婦、産婦、授乳婦等への投与
妊婦中及び授乳中の婦人には、長期にわたる広範囲の使用を避けること。
- 4.臨床検査結果に及ぼす影響
酸化反応を利用した潜血試験において、本剤が検体に混入すると偽陽性を示すことがある。
- 5.適用上の注意
(1) 使用部位
ア) 損傷・創傷皮膚及び粘膜には使用しないこと。
イ) 終口投与しないこと。
(2) 使用時
ア) 眼に入らないように注意すること。入った場合は、水でよく洗い流すこと。
イ) 石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
ウ) 電気的な絶縁性をもっているため、電気メスを使用する場合には、本剤が対極板と皮膚の間に入らないように注意すること。

- 6.その他の注意
(1) ポピドンヨード製剤を新生児に使用し、一過性の甲状腺機能低下を起こしたとの報告がある。

【薬効薬理】

- 1.本剤は無菌試験に適合した外用殺菌消毒剤である。
有効成分であるポピドンヨードはポリビニルピロリドンとヨウ素の錯化合物で、ヨウ素を遊離することにより殺菌作用を示し、その作用は持続的である。抗菌スペクトルは広く、グラム陽性菌・陰性菌、真菌、結核菌及びHBV、HIVを含む一部のウイルスに有効である。また抗生物質耐性菌にも有効である。

2.生物学的同等性

ポピヨドンスクラブ7.5%と標準製剤を任意に希釈し菌液と接触させたとき、両剤の生存菌数の経時的変化には相関がみられ、生物学的同等性が認められた。

【取扱上の注意】

- 1.衣類に付いた場合は水で容易に洗い落とせる。また、チオ硫酸ナトリウム溶液で脱色できる。

2.安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ポピヨドンスクラブ7.5%は通常の市場の流通下において3年間安定であることが推測された。

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部
東京都中野区中央5-1-10

※  キャップ:PP
ボトル:PE
ラベル:PS

202006

開封日

年 月 日

ポピヨドン[®]スクラブ7.5%

500mL

無菌医薬品

販売

※※2018年 9月改訂(第8版)
※2015年11月改訂(第7版)

外用殺菌消毒剤

ポピヨドン[®] スクラブ7.5%

Popiyodon Scrub 7.5%
ポピドンヨード製剤

500mL

日本標準商品分類番号	承認番号	21400AM200307000
872612	薬価収載	2002年 7月
	販売開始	2002年 7月
	再評価結果	1982年 8月

調剤



本剤の適量を用い
少量の水を加えて摩擦し
よく泡立たせたのち
流水で洗う

貯法:直射日光を避けて室温保存
使用期限:ラベルに記載

製造
番号
使用
期限



ヨシダ製薬

製造販売元
吉田製薬株式会社
埼玉県狭山市南入曽951

400

300

200

100

※※【組成・性状】

1.組成

本剤1mL中にポピドンヨード75mg(有効ヨウ素として7.5mg)を含有する。
添加物としてポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル硫酸アンモニウム、
ラウロマクロゴール、ラウリン酸ジエタノールアミド、モノラウリン酸ポリエチ
レングリコール、ヨウ化ナトリウム、ヨウ化カリウム、pH調整剤を含有する。

2.製剤の性状

本剤は黒褐色の粘性の液である。

【効能・効果】

手指・皮膚の消毒、手術部位(手術野)の皮膚の消毒。

【用法・用量】

1.手指・皮膚の消毒

本剤の適量を用い、少量の水を加えて摩擦し、よく泡立たせたのち、流水で洗う。

2.手術部位(手術野)の皮膚の消毒

本剤を塗布するか、又は少量の水を加えて摩擦し、泡立たせたのち、滅菌ガー
ゼで拭う。

【使用上の注意】

1.慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)

- 1) 本剤又はヨウ素素に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 甲状腺機能に異常のある患者【血中ヨウ素の調節ができず甲状腺ホルモ
ン関連物質に影響を与えるおそれがある。】

2.副作用

総症例2386例中副作用発現は8例0.34%であり、その内容は接触皮膚炎
4例、痒疹2例、発疹1例、発赤増強1例であった。(再評価結果)

(1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(呼吸困難、不快感、浮腫、潮紅、蕁麻疹等)
(0.1%未満)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が
認められた場合には、直ちに使用を中止し適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

種類\頻度	0.1%未満
過敏症(注)	発疹等
皮膚	接触皮膚炎、痒疹感、灼熱感、皮膚潰瘍
甲状腺	血中甲状腺ホルモン値(T3、T4値等)の上昇 あるいは低下などの甲状腺機能異常

(注) 症状があらわれた場合には、使用を中止すること。